

2008年5月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度で見ると、東シベリアやバフフィン島、ノルウェー海で顕著な正偏差が見られたほか、アリューシャン付近では顕著な負偏差が見られた。海面気圧では、高緯度に高気圧偏差、中緯度で低気圧偏差が卓越し、日本南海上への北太平洋高気圧の張り出しは弱かった。5月末にはオホーツク海高気圧が発達した。日本付近の亜熱帯ジェットは平年並の位置で強かったが、日付変更線付近では平年に比べ南偏していた。帯状平均東西風で見ると、北半球の亜熱帯ジェットは、ジェット軸付近で平年より強かったが、その赤道側では平年よりも弱かった。50°N から60°N 付近では東風偏差が見られた。高周波擾乱の活動は、北太平洋、北大西洋のストームトラックで平年よりも不活発だった。

熱帯域の対流活動は、南シナ海からフィリピン東方で対流活動が活発で、特にフィリピン東方で非常に活発だった。これらの領域では台風が4個発生した（5月としては最多タイ記録）。一方、インド洋熱帯域では対流圏上層の大規模収束偏差域にあたり、対流活動が抑制された。赤道季節内振動（MJO）の対流活発な位相は中旬以降顕在化し、西半球からアフリカへと東進した。対流圏下層では、活発な対流活動に対応して、インドシナ半島からフィリピン東方のモンスーントラフが発達し、モンスーン循環は平年よりも強かつ

た。太平洋赤道域では、東部で西風偏差が持続したが、西部の東風偏差は弱まった。

南方振動指数（SOI）は-0.2となった。

世界の天候

2008年5月の世界の月平均地上気温平年差は、+0.16°Cで、1891年の統計開始以来、9番目に高い値となった。5月の世界の平均地上気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は0.65°C/100年である。

○ベンガル湾東部では対流活動が活発で、サイクロン「ナルギス」が4月下旬に発生した。「ナルギス」は5月初めにミャンマーに上陸し、13万人以上が死亡、もしくは行方不明になったと伝えられた（IRINによる）。

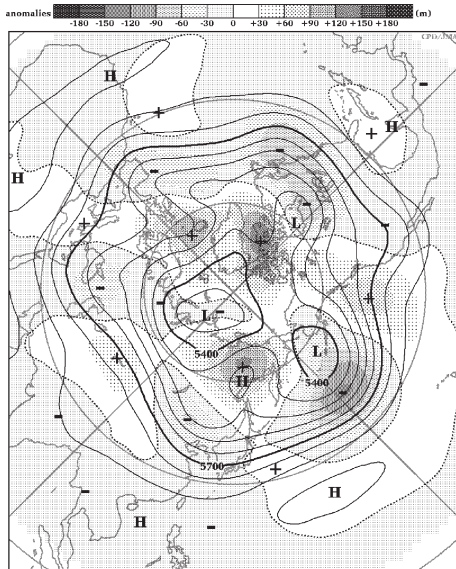
○朝鮮半島からイランにかけての広い範囲で異常高温となった。

○ヨーロッパ北部では高気圧に覆われることが多く異常少雨となり、ヨーロッパ南部では低気圧の影響を受けることが多く異常多雨となった。

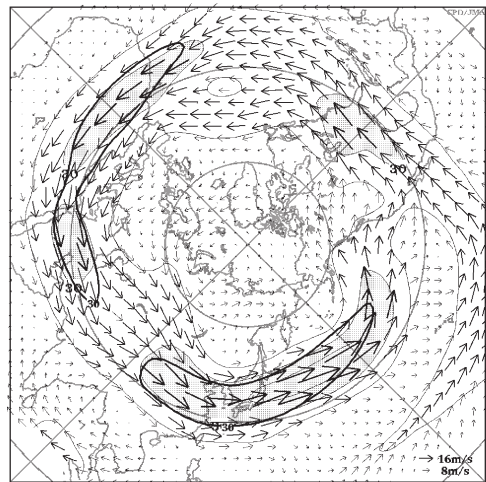
（気象庁地球環境・海洋部気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

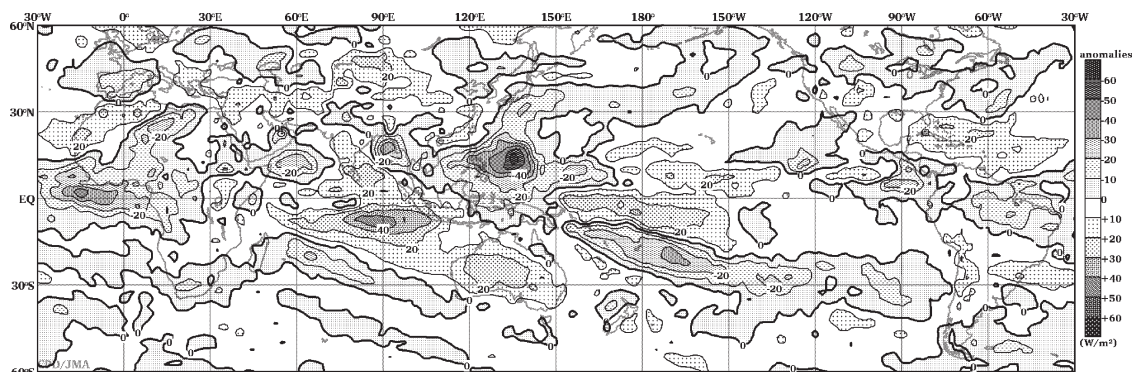
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



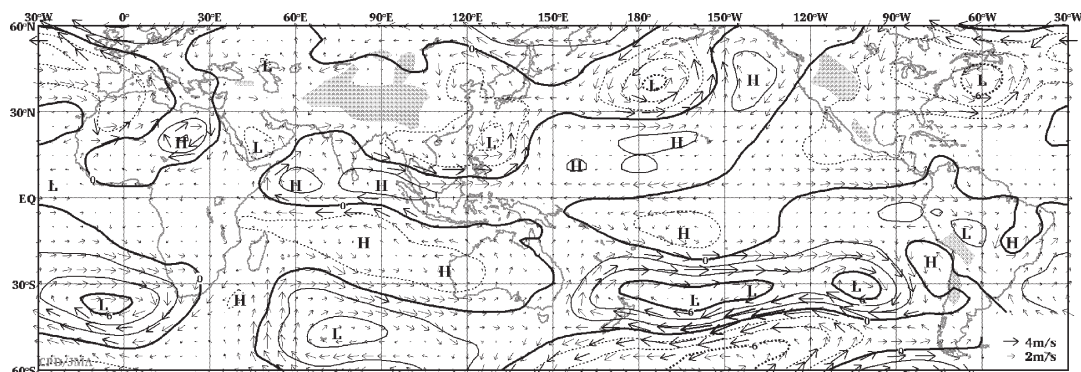
2008年5月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1979～2004年のデータから作成。



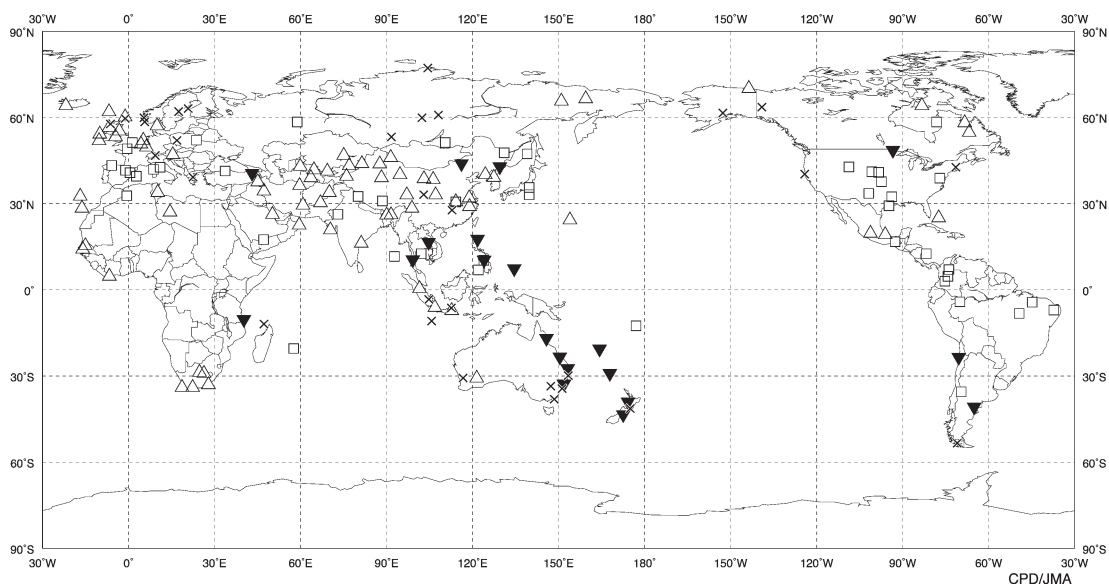
2008年5月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は15 m/s。陰影部は30 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す。平年値は1979～2004年のデータから作成。



2008年5月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2008年5月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2008年5月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0.